

『何のために剣道を？』

茨城県

十王町武道振興会

小学6年 牛坂あすか

「何のために剣道を？」

その問いに答えようとする、ぴったりの答えがうかできません。

私が剣道を始めて八年がたとうとしています。私の身の回りには、あたりまえのようにいつも竹刀や防具がありました。家族の後にくっついて、いつの間にか剣道を始めていました。今まで何の疑問ももたずに、月曜になったら剣道、火曜日にも剣道、水曜日にも金曜日にも土曜日にも…。一週間のほぼ毎日、稽古に通っていました。

しかし、六年生になった今年、私には、いろいろな未来があることに気づいたのです。

「中学生になったら、何部に入る？」

「剣道部。」

すぐに答えられない私がありました。友達はバスケ部だったり、バレー部だったりします。

「友達と同じ部活をやりたいなあ。」

それでも、今度は疑問をかかえながら、月曜になったら剣道、火曜日にも剣道、水曜日にも金曜日にも土曜日にも…。一週間のほぼ毎日、稽古を続けました。続けたことで、少しずつ勝てるようになり、全国大会にも出られることになりました。

私は、その全国大会に、大好きな祖母を連れて行ってあげたかったのです。私が剣道を始めたころからずっと、道場に来て、見守ってくれたからです。昨年、病気になり、急に弱ってしまいました。道場にも来られなくなってしまいました。何回も何回も検査を受け、やっと背中骨がとけてしまったことがわかりました。それまで、原因がわからずに落ちこんでいた祖母ですが、お医者さんの

「ゆっくりだが、八十歳でも骨は再生します。」という言葉に、今では元気を取りもどしています。私は、言葉の力におどろいたのと同時に、今年行けなかった全国大会に、来年こそは連れて行ってあげたいと思いました。そして、いそがしい両親に代わって、今まで支えてくれた祖母を喜ばせたくなりました。

「ばあちゃん、来年は一緒に行こうね。」

今年、私は、大将をまかされています。

「私にできることは何だろう。」

チーム力をあげられないかと、試合の後に反省を書くことを提案してみました。すると、チームのみんなが、勝ちたいと思っていることに気づきました。今まで、自分一人でがんばっているつもりでいたことにも気づきました。みんなとがんばって行っていききたい気持ちが強くなっていきました。そして、これまでの修業の中での楽しかった剣道を思い出す

ことができるようになりました。

昨年、父のかんれきの記念に、百回稽古と京都武徳殿での稽古に挑戦しました。真冬のキーンと音がしそうな空気の中に、堂々と建つ武徳殿を見たとき、とてもドキドキして背すじがピンとなりました。そして、「いつもの道場とちがう。できるかなあ。」

不安でいっぱいになりました。中へ入ってみると、床に使われている木の年輪がうかび上がってでこぼこになっていました。その一本一本に歴史を感じさせられ、

「す、すこいなあ。」

が止まりませんでした。父や先ばい方との稽古は特別な感じがして、ちょっぴり強くなったような気がしました。そして、また京都武徳殿でできるように練習を頑張りたいと思いました。今年は、愛知県にある明治村の「無声堂」という所で稽古をします。どんな気持ちになれるのか、楽しみです。

私が剣道をしていることで出会える人や経験できたできごと。仲間と喜び合えたあの時。私がかんばっていることを心から喜んでくれる祖母や家族。私のまわりには、剣道をやっていなかったら見つけられなかった宝物がいっぱいあります。

「何のために剣道を？」

今度からは、まよわず答えられます。

「大好きな人を笑顔にするためです。」

と。